

石クリ通信

11月号

障害者の作った最高級ワイン
事務局長 石川 都

群馬県足利市の山あいに、こころみ学園と言う知的障害者の施設がある。創立者川田昇が、障害者の経済的精神的自立のため、ぶどう栽培を始めたのは、今から五十年ほど前のことである。ひたすら体を使うことを重視する川田の方針で、山の急斜面の開墾から始まった日々の尽きない労働が、障害ゆえ過保護に育てられた子どもたちの体を着実に鍛え、失禁も治し、身体的社会的能力を開花させてゆく。

忍耐強い園生たちのひたむきな努力は、専門家の力も得て、やがて世界最高レベルのワインとして結実する。それが2000年の九州沖縄サミットの首脳晩餐会で乾杯に使われたココ・ワイナリーのグラン・NOVOである。

私が市の教育委員時代、共に障害者の自立支援に関心があったOさんとNさんと女三人旅でこころみ学園を訪問したのは、夏真つ盛りの暑い日であった。園生たちの開墾した断崖のような急斜面のぶどう畑を眺めながら、日蔭のテラスで飲んだスパークリング・ワインの味は今も忘れられない。

曇りのち晴れ
看護助手 柴田 さち子

気持ち沈んだ時は、お弁当を持って神峰公園の頂上に行き上から周りを見て、子供の頃を思い出してお弁当を食べます。昔神峰公園の近くに駄菓子屋があり、母から貰ったごぼうかいで飴玉を買った。自分の子供たちを連れて遊びに行き、はしゃいでいる姿、嬉しそうにお弁当を食べている顔、色々思い出します。今はマンションが沢山建ち、大分景色も変わりましたが、私の気持ちを癒してくれる場所です。子供たちは大人になり家を離れて行きました。自分が生まれ育った町、何度見ても癒されます。「帰りは、晴れ」。

飲まず嫌い
事務 久保 直子

寒くなってきましたね。熱燗の季節です。冷えた体をあつたお酒で温めて、美味しい肴を頂く。最高です☆ そんな事を言っている私ですが、熱燗を楽しむようになったのは昨年からです。以前は温めたお酒の匂い⇨酔ったお父さんの臭いというイメージが強く、避けていました。が、昨年店員さんのオススメで頂いた熱燗がそのイメージを払拭！ 燗した日本酒ってこんなに美味しいのか！とビックリ。今まで避けててもつたいなかった。飲まず嫌いは良くないですね。

秋も深まり
看護師 高山 早苗

一月の声を聞くと今年も終わりに近づいたなあと感じます。また夜も随分と冷え込んできてきました。こんな時には身体を温めてくれる食べ物にとりたくなります。野菜だとうがらしやシヨウガがよく知られています。ネギやカボチャ、カブ、小松菜など、これらは秋から冬にかけて旬であり、寒い季節や地方にとれるものが多いです。逆に身体を冷やすのはトマトやキュウリ、スイカなど暑い時期にとれるものが多いそうです。近年スーパーではいつでもほしい野菜が買えて、旬がいつなのか分からなくなっていますが、旬の時期に旬のものを食べるのはとても理にかなっており、運氣もアップするそうですよ。

言葉の綾
看護師 澤田 彰子

先日四歳の息子とばあばが散歩に出かけて、へびの脱殻を見つけてきました。ばあばはそこで、「お財布に入れておくとお金が増えるよ」と言ったらしく、息子は散歩から帰って来て早速お財布にへびの脱殻を入れていました。そして、その日の夕方、息子がお財布を持って泣きながらばあばに、「ぜんぜんぜんふえてない」と・・・そう。ばあばは、「お金が貯まるよ」の意味で言ったのに、息子は素直に「増える」と思ってしまったのです。その後、ばあばがこっそりお財布を入れ、一件落着となりました。

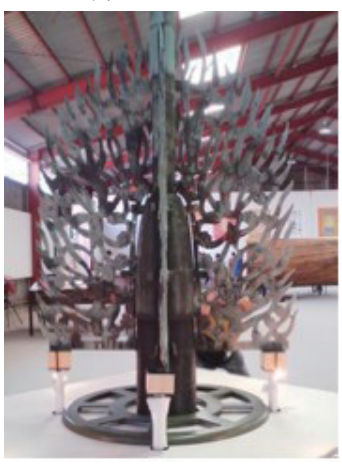
いざという時に
通信・ウェブ担当 石川 香

スタツフの原稿を毎月二十日に受け取り、石クリ号の編集は始まります。おかげさまで大好評を頂いています。私も皆の原稿を楽しみにしている一人です。それぞれのファイル開く瞬間はウキウキします。それぞれの文章にコメントをしたくなることもチラホラあり、今回は森ちゃんの文からアイデアを拝借。

私ももう十年近くデジカメを愛用し、何より良いのは、整理が楽なこと。各フォルダに名前を付け、ハードディスクに入れておけば、何千枚もの写真が簡単に保管できます。ですが、先日ラジオを聴いて「なるほど・・・」と思う話をしていました。震災の際、1人のカメラマンが現地にボランティアに行き、流されてしまった写真の回収の手伝いをしたそうです。昔の写真が手元に戻り、感動したシーンをテレビで見た方も多いいと思います。けれども、その際USB等、デジタル保存されたものは回収の対象にならない、置き去りにされたそうです。動くかどうかかわらないデジタル機器を回収しても仕方がないのは理解できますが、残念な話です。最近各家庭で防災用品を準備していると思いますが、普段からお気に入りの写真はプリントしておくのも、紛失対策の一つになるかもしれません。

薬師寺東塔水煙
院長 石川 悟

九月の連休に奈良に行ってきました。先輩たちとの演奏会があり、翌日はフリーで、奈良の都見物となりました。薬師寺東塔(三重の塔)が六十一年ぶりの修復で、「水煙降臨展」が行われているというので、レンタサイクルを走らせて見に行きました。美術の教科書などで見た、国宝ともなっている水煙は、千三百年前に作られたとは思えないすばらしさで、透かし彫りされた24人の飛天(裏と表で2人と計算)は笛を吹いたり、花を蒔いたりしている姿が印象的でした(図参照)。この展示について若いお坊さんが、マイクもなしで説明してくれていました。感動したのは、その声のよく響くことと言葉の歯切れのよさ。われわれも、患者さんや家族に説明する時にはわかりやすく、理解しやすい言い方をしなければ・・・と改めて思いました。(なおこの水煙降臨展は十一月末までやっている。)



思い出を形に残そう！
事務 森 絵里子

家族のアルバムを久しぶりに整理しました。幼い頃の兄と私の写真が多く、記憶にない頃の自分の写真を見ていると不思議な気持ちになりました。(生まれたばかりの兄を抱く当時の父と母が今の私より若いと気付いた時はなんともいえない気持ちになりましたが・・・)私もデジタル一眼レフを愛用しています。撮ったらずすぐに画面で確認でき、その場で消去も出来るため現像せずにデータとしてパソコンの中で眠っている事が多いです。しかしそれではせっかくの思い出がもったいない。撮って終わりでなく、写真を見ながら家族や友人と昔話で盛り上がり、掃除の時にポロっと出てきて独り思い出に浸るのも楽しみの一つです。家族の思い出をマメに現像し保管して、くれた母に感謝です☆

